

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

内村鑑三先生書問五

一九〇八年
明治四十一年

謹 賀 新 年

小き群よ懼る、勿れ汝等の父は喜びて
國を汝等に予へ給はん。路加傳十二章三十二節

明治四十一年一月一日

東京府下淀橋町柏木九一九

内 村 鑑 三

郵便便紙

陸中、花巻川口町

齊藤宇三郎様

花巻教友會

御中



印刷局製

陸中省法

はな成らざるに雖も有相見傳りに
本年のふのいさなとまが

はな皆標に何のいさなとまが
らなまがらななにわらみあな

比佛しおまねりて 福なるにけり
 隔しはなかりぬるし 是る菊
 は奥村の庄にふくの には田雞
 ころも 上りて ぬるし ぬるし
 三は何のに採りたるか 折角
 ともかく ぬるし ぬるし ぬるし
 と採りたるし ぬるし ぬるし
 是るすまゝに ぬるし ぬるし
 本日の二回原稿のよきはな
 昨らぬまゝに ぬるし ぬるし
 ぬるし ぬるし ぬるし ぬるし
 本日の二回原稿のよきはな

此書の外はやうと書只に威
附附 居りか

前田女史は初氣の田中様
始めは用事

昨は行同附親

此は同女史の初氣の事

わがも

さう

元氣

左

皆

附

お

山崎七保 中三郎 先

右 山崎 中三郎

山崎 中三郎

山崎

山崎

山崎 中三郎

山崎

府下柳井丸五

内村 五郎

二月廿八日

陸中花巻川所

斎藤宗三郎様



親展

其後法華よりよき由
大悦に存る、若し事
法都合好き由、君の
たのむ感海鼓の
当方目下は至二年

後ニ清キル。無抵
抗主義ノ結果トシテ
敵ハ悉ク散乱シ
有様ニ清キル。此
旨ツサ子ニモ清通
知ヒ下タルニ宜ニキリ
ス。ハ我等ノためニ戦
ハ終ル時は恐るべき
ものニ清キル。
去ル十五日鳴ノ濱村
ニ於テ。二泊。三
回清通教シ。彼地

に於ても無教金主義
は可考え居り。

水澤其後の有極
は如何にしか法序の
第一法知らせしむるが

多し、人が彼女に對
し同情を申出、彼嬢
が應々醜態を廢止の
曉には思はざる所なり
程物と来るべくしむ

、此方の法注を必と
し、法勸を必と稱する

室
蘭園の身よりは、り

く先生「死の書」面
考りか。彼は去来りた
ま好漢よふ人となら
全く一時教玄行者に
欺かしちよまら。彼
かのいも清之に新り申す
べし

照井君。御はさし
表した。清房の
し。清傳の

別紙。届はせ
拙筆。差上申
明日。又々。有稿
清房。清新

ふらめさ

1908 二月廿一日

鑑三

〇〇 鼠 藤 三

ワサ子といま一度呼
びだきと家内と話し
居り、今度又下塚
として、あく今西家
の法、短衣様として呼
びだしたる、来月十日
頃、改築、移轉
の筈、其後、当今

12.
107-57
=A*-P

陸中、花巻川口町
△岡藤宗二郎様

✕
2-21

東京府豊多摩郡滝瀬桶町
大字柳本九百拾九番地
内村 麟三

井筒の方針をまよ
かしたるを、いさ子の内
意を清く押し、清く
せしむるなり

陸中、花巻川口町
藤宗二郎様



東京府豊多摩郡淀橋町
大字柏木九百拾九番地
内村 鑑三

清手紙有難く奉
拜訪仕り

陳は六生事奉来る十六
日当地出奔、大阪神
戸地方へ聖書傳
道に行かんと存り、就
ては拙り教会信者の

中に入る事として注意
と力とを要する事と其
だ多く就くは中又并
に滞地教支諸君の
於て十六日より廿三日まで
毎日六生のため特別
の祈禱と清掃がとら
やう早急に願ふ事
行又教会的信仰に
一打を加へて異務の
幾分おと傳へたことある
日割は左の通りとす

十七、十八、十九、三十日個
大阪に於て開催

二十日廿一廿三廿四
神に於て

右殿上

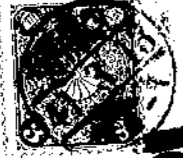
来る廿三日頃新宅へ
移轉の傍りに来月
早々今月末迄の宜し
み子来くば幸甚也

三月十二日

鑑三

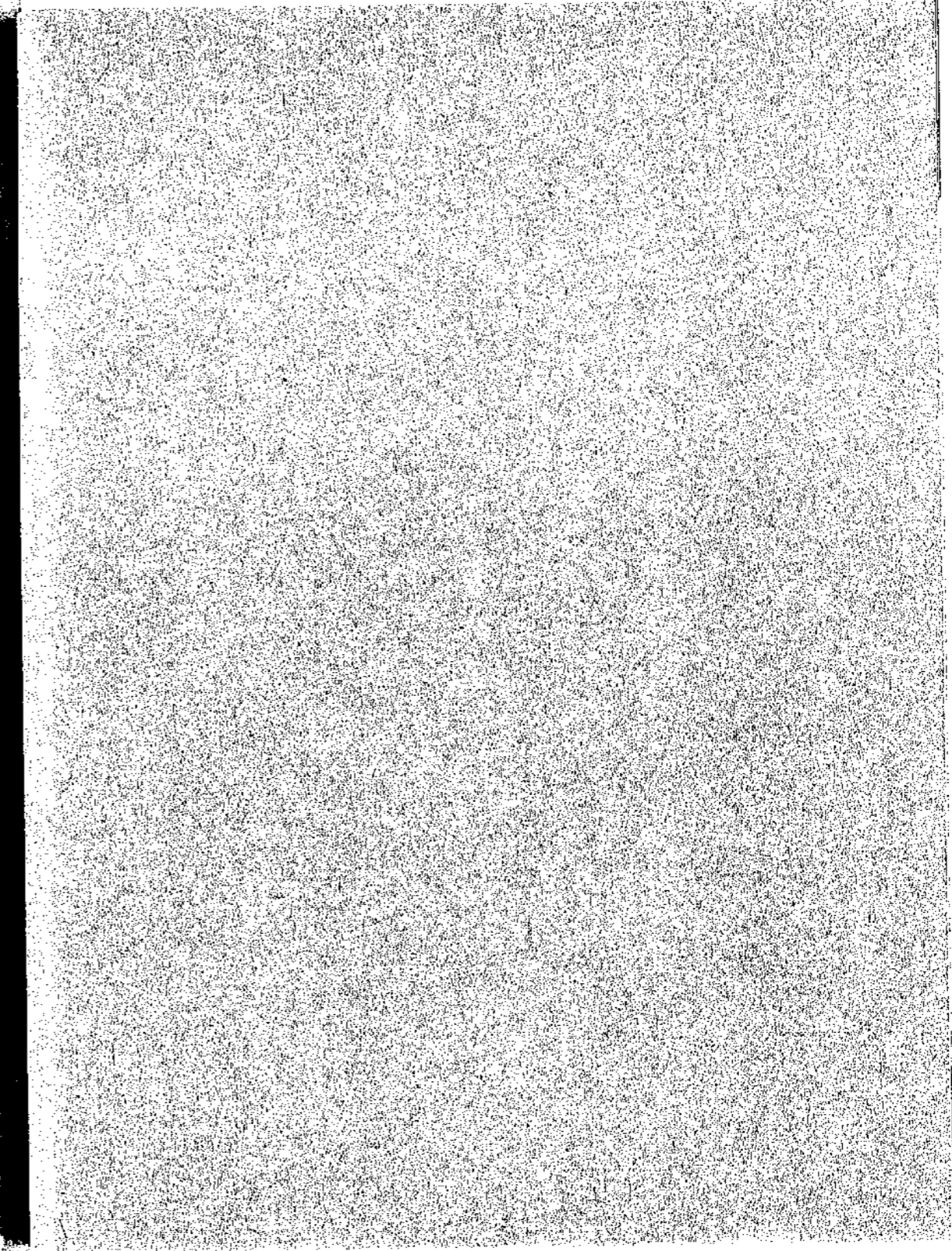
簡為兄

陸中、花巻川口町
齋藤宗二郎様



十
3-13

兼京府豊多摩郡流橋町
大字柏木九百拾九番地
内村 鑑三



轉鼓之陳は小正等改
築出来初し一周は
以内に移轉鼓すべく
然るは庭園の小花
壇三箇を設けり

信用すばき草芥の

種子を得るに困難

甚だ申上兼ひ

致しに付と貴兄に於

て清所有の地の清を

配い與つからたく早々に

預上の品は生命と

善くおぼしめすの事にて

も直しく且つ彼岸

も近づきかに付き勝

手がましく得共、至急

に預上の

清書一面に由り、水澤

の様子を玉より大に安

心仕が、羨し彼女にして

断然廢業すべし
くはえらぶの神物有之
べし今日も英國貴
婦人其訪来あり必
か出来得る大に援
由申居る是非共決
行致せせたまものには
明朝倉橋氏同伴
西行仕りし清新り
たふ草々

三月十九日

鑑三

品川藤見

十
3-15

東京府豊多摩郡滝橋町
大字柏木九百拾九番地
内村鑑三

陸中、花巻川口町

齋藤宗二郎様





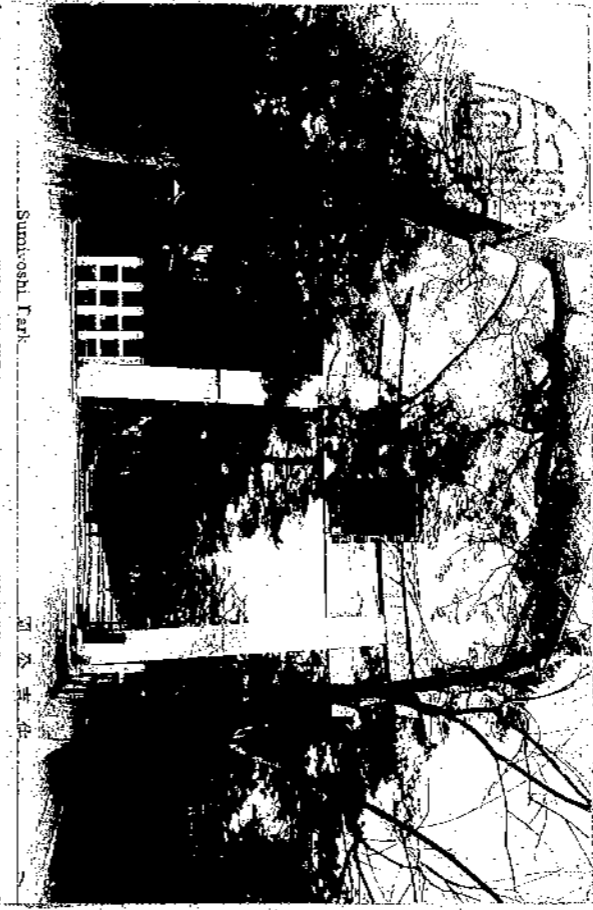
郵優はかき

陸中花巻川口町
齋藤宗二郎様

POST CARD

今茲に在り
諸君が祈
禱を以て余と
共に在るを信ず
二月十八日
銀三

舛陸此度の西下は大失敗に
到着早々腹痛に切腹今日日
まで臥床致し然るに且つは
深き掘理の存する事
井子の義は何時来るも差支無
之の彼女の勤務と申すは亦一家
内と受け居る事と云ふ新築今
井館の管理と接する事とに然し
下中と云ふは扱ひ不申家族の一
人として扱ひ申すべし夜具は矢
張り持参多し
Kamayo no kaha ga kogu-
kaisen wo okuru to naraba
sono mama uketoru yo
kimeokaretabashi
明後日帰東廿五日には柏木に
多少の神助は致し
三月廿五日

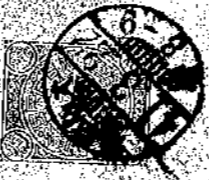


Sunio-oshi Park

陸中國、花卷川口町

三才社

齊藤宗康



村錦三

三才社

拜啓。先日大段よろいがかき差出し置か
宣のし清世終の事つととらり、ツサ子音を
付き次々集清世にせし被下たりの二軒
に相成り、いけき彼女来り、いよ山には、大
に様かり申り、
種物直に清世り、いよ有難奉り、今
年よりいよ生、いよ大に園サ藝に送、いよ致

たぐりか。ストローベリーと印内磨く
植付けたり。花巻園藝博士の
指手と望まかり。

大段は清濁としては大失敗の有るに
然し思はざるに於て大成功の有るに
清地清え姪新橋の方に由るとあり。草々

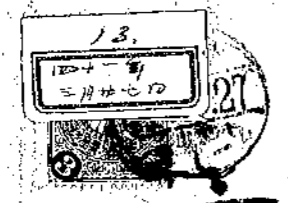
三月廿七日
鑑三
〇〇所蔵

3-27

東京府豊多摩郡滝橋町
大字柏木九百拾九番地
内村 鑑三

陸中、花巻川口町

齋藤宗二郎様



科隆陳はイタゴの
苗澤山に生送るよ
有難事なる、去年
よりは此地に在る地
の美果を味を得

ふくし司其々居る

ワサ子若し都令其

しこ来ると得たは其

旨清申越 いふた

の實は先日来信

州井口氏より一人

婦人せ扱かりの事

こ頻りに申来りの其

当方に於てはワサ子

待居るうちとあれば断

はい無事なる若し

ワサ子にこそ来る能事

とよいは い 井口氏の依

頼に鷹がふくみ
子の都合を清く
聞かせようから

来る六月の百歳祝
には母を以て必ず
清くする人となし
願ふ

四月六日

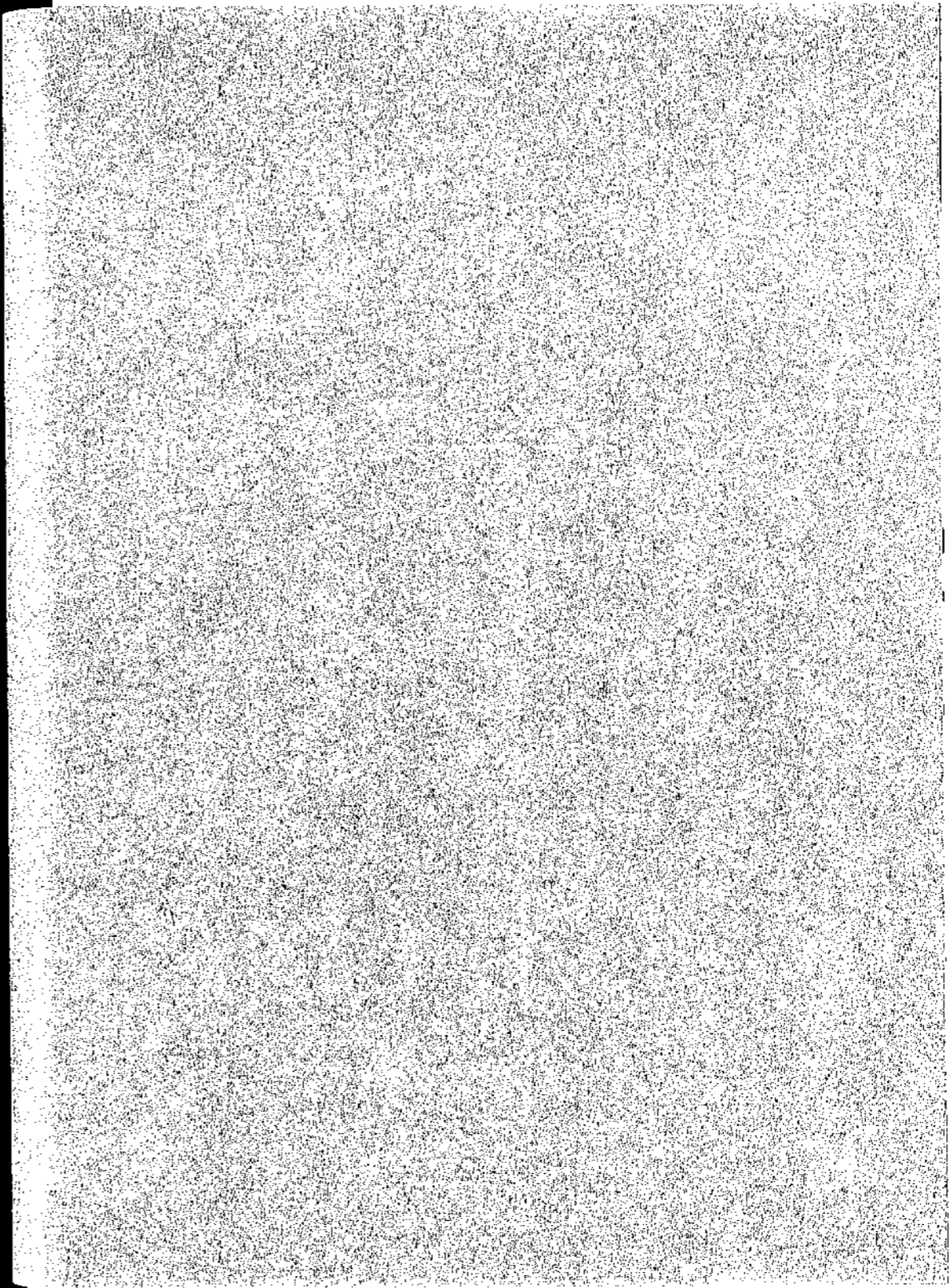
鑑三

品名足



陸中花卷三
齋藤宗二郎様

f
4-6



小生は朝も暮も
新藤の學

特設、電報并に

清書、函正に於て、

以女子業にさざる由、

一同の共進に努むべし

然し其妻と云はざるの
理由の如何と云は
たる故小生并に家内
に於ても返こき言ひ申
ひ彼女の生涯が若し
幸+福ありとすするも
高貴を以てんことあり
祈上の
諸兄姉へ直しく清
傳へて下たらん勿々

四月十日

鑑三

鼠藤兄

イタゴ苗、減に有難奉存あり、大
雪のため、未だに極白し不申なり、

Y
4-14

東京府豊多摩郡滝橋町
大字柏木九百拾九番地
内村 鑑三

陸中、花巻川口町

齋藤宗二郎様



拜啓、清書を面々拝し
重々の清心殿の貴兄の
身に逼ると知り、且つは
悲々且つは喜々い申し患
難は信仰の回裏に後りと
興いふいふいふいふいふいふいふ

患難多きは信仰多
き確たる隆據に
清き君が神なり

君に造つては信仰と
消化せられたる患難
加君に懸つてはしこり

奉月君と比喩に於て
見ろと得た幸福の果
りに清き君が今や後事
に就て種々考へ事の中に
清き君

皆様の真しく
①

五月廿六日

19
上野

陸中花巻川口町
齋藤宗二郎様

5-16

陸中花巻川口町
大野村
内村 鑑三

齋藤君

鑑三

拜啓。先日は清芳の会
ヒ下誠ニ有難奉事有之。
清病人権々清有之望
の由。大慶ニ奉事有之。
借。兼おて清請求申上
置る。甘澤山に清住

りじ下萬々有難奉存
り。實に美大事に牛来
より。豊久の清牛ギワ
感服の難るにたり。昨
旦一回賣味致し居るに
際南条君萬歳と
唱呼致す。

一生の北上は多分六ヶ敷
きせとせらる。歯の治療に
二時と金とを奪はれ。柏
木の里に閉居するより他に

金 おかしな事

清君の直しく清傳へ
たふ。不精業。新橋の

文標坊のたふのうら

六月十六日

鑑三

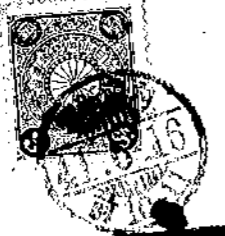
品為君

6-16

東京府豊島区池袋町
大塚本九百拾九番地
内村鑑三

陸中花巻川口所

斎藤宗二郎様



清書面正に廿冷寧
仕り皆様清平康を

加賀の

清向合せの件に付を左に
清筆言へ申上り

旅宿業は善くニハ

道守には最も有益なる
業と存る。我国今日の
旅店の墮墮せぬたる實に
甚だしき者に有之。此際
心切と公平とを以て主とする
旅店の用おれ人には旅人に
取り至大の幸福に法を
り。然し子がと有益なる大
けそれ大に危険に法
を。決心を要する事と
最も多き。故に差し貴
兄にして夫に監督の任に

當るの決心あり、且つ清養
母にししえを、清養見物

の上より、清養勸め申上り、
但し貴兄の健康が、

裁りに清養が、誘惑多

しと必し、之を避くる必要

あり、
梅の清養、
早に清の兩人

或いは清地の紀改良上

一新期限を、開くに至る也

とも、然し、悪魔が

貴家に乘する機会と

あり、其の如く、其の

え、清に居る、よ

とら

来月は例の通り雑穀
茶行致しからず左やじ
清系承知とすたる有る

七月廿六日

鑑三

実小一足

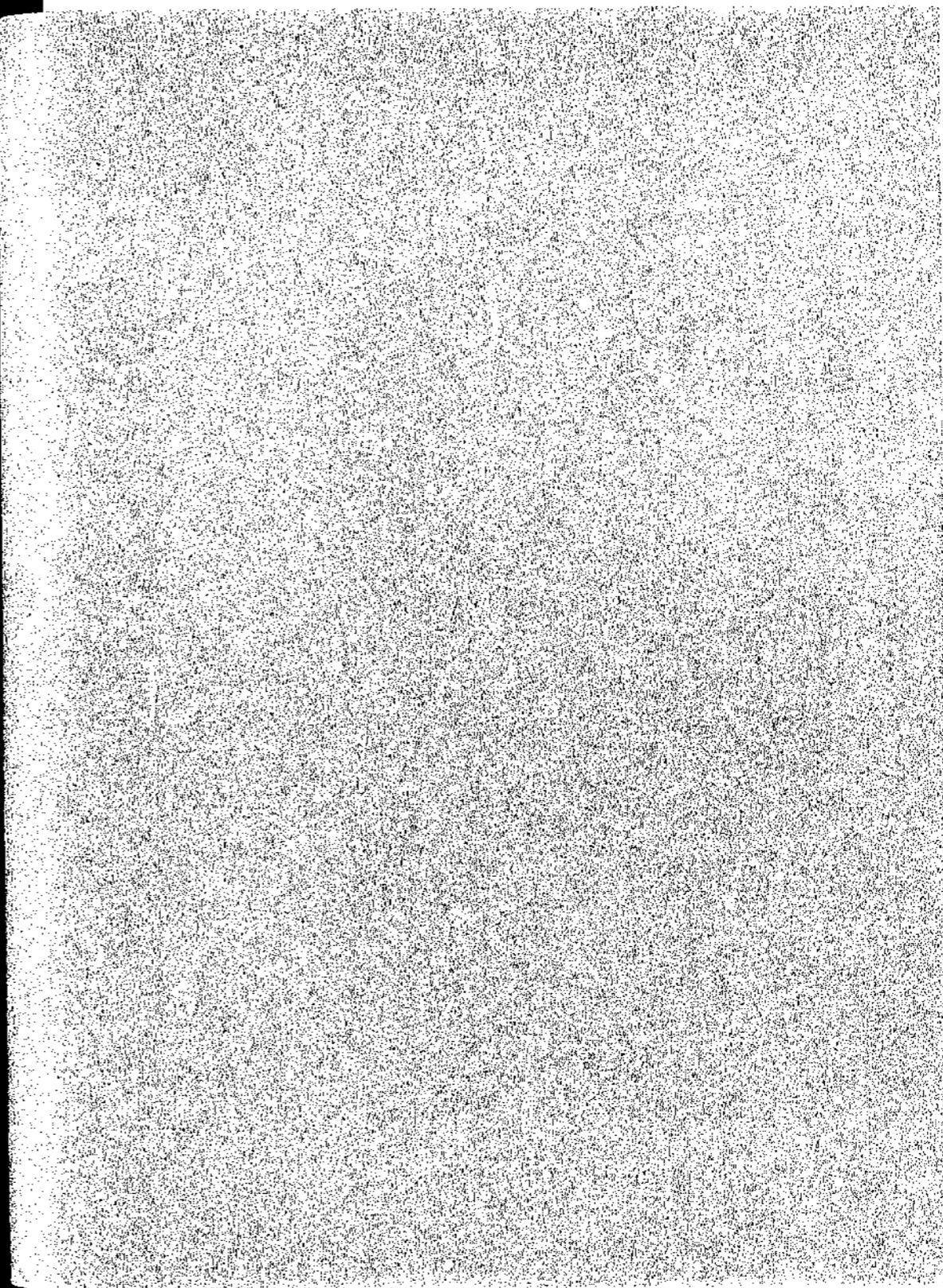
15.
744712

陸中花巻川口町

齋藤宗二郎様

7-26

東京府豊島区
大塚本丸町九番地
内村 敏三



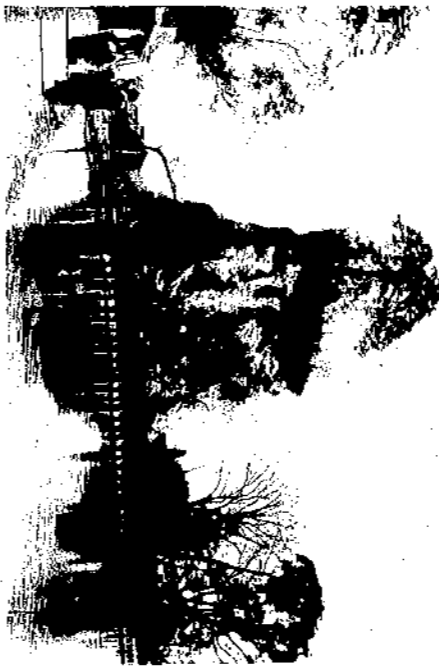


陸中
栗藤室三郎様

陸中、花巻川口町

Carta Postale

昨夜、目下、家病
る者、本、彼、賀、村
に、於、て、生、産、也、
送、り、居、る、昨、日
正、廣、後、名、の、後、
氏、の、地、に、寄、り、
二、海、飲、の、事、を、
傳、へ、居、る、事、を、
八、月、廿、五、日、
栗、藤、室、三、郎、様、
謹、言、
（伊、賀、川、平、原、村、）



蘇州園林一景

辨解、小生今に高はる
地に滞在致居る。明後
日帰宅仕るべく。当地
にありしより後教七回仕
り、旧約五レニヤ記を復
讀致し、近刊「オカルカ」

氏キリスト受肉論(英文)

と稱し、曷も六ヶ敷を四

百頁の書一冊を精読

致しが、祐之と毎日に

浴し、今は父子二個の

黒塊と代し申り、黒

家い帯りと例の仕事は後

事致すやんか、

借、前回書申越々ッサ

子の件は、はき家内と違つて

相談致しい處、本来得

るより、は彼女と所へ、永く

家に置きたるは、小生は彼

女を娶る忠実なる娘
同姓に清なる。彼女が家
に居るは平生に取リ積りの
念に於て手助けに清なる
但し目下の慶信州井
口氏より預かりし婦人

有之ルに附き、ツサ子の来

るは彼女の始末の附きし

後に被したる。多々今年

中には何とか方は附き申

すべし。

今秋よりは小半も亦る何に
か別に仕事に取掛り、

経済的不逞を補はざるを得ず、為の以一人以上の同居人は目下の優^く困^る難に清年多^く、地上に在る間には多少の困難は当然の事^にに清年多^く。

貴家の事も何とか桂^きまら

か事^とと^なら^ば、何れ^もあ^らう^とも

永遠、問題には差したる関係無^き事^にに^いる^別に清^の肥^あさ^るま^いか。

清地清君^の宜^しと清傳^のと^らた^らば、今年も清地の美^はし^き秋^を見^たか^ら。

ゆ^り

八月廿一日

本須加

三

宗義

八月廿一日

千葉縣山武郡鳴濱村

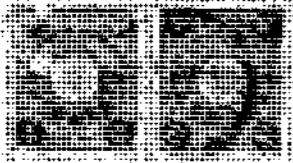
海保氏方

内村鑑三

陸中花巻川口町

△前藤宗一郎様

(切手一葉不足清償なり)
と下たより



拜啟。清註文の書は
只今差出。乃清落手
と下た。其内、最大遣
物とよる。短言とは
醒社より直に清送附

明日は日物屋に付て参上
致すべし。明後日に相成り。甚だ清気の
まに清気。

山岸家内目下病氣

にこゝ生又々自身の事

務員と相成り

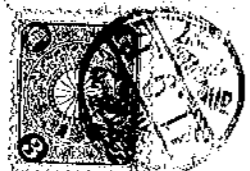
清病人様清快方の

事とあり。の

九月十二日

鑑三

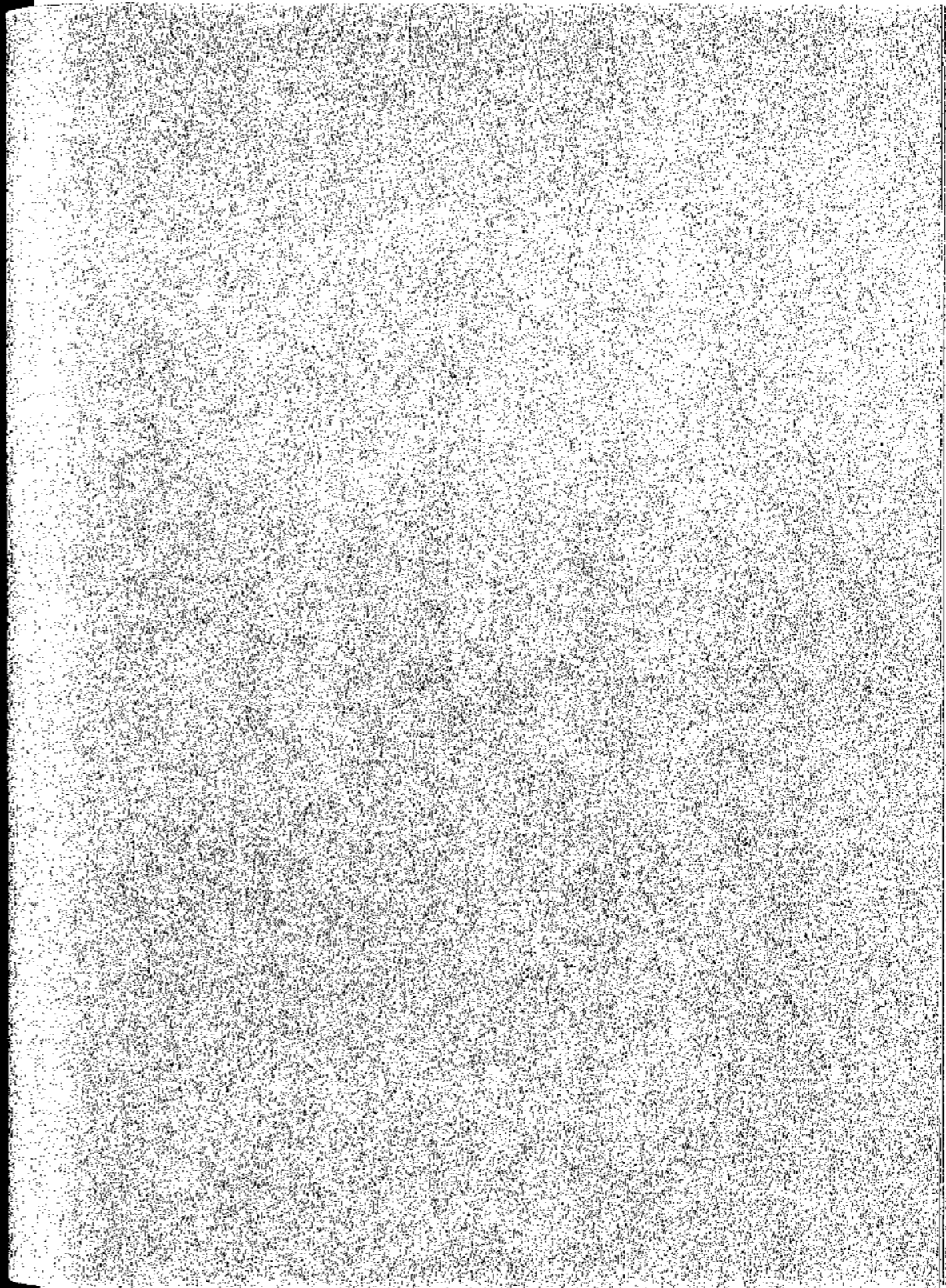
サイトウ君



陸中、花巻川口町
齋藤宗二郎様

9-12

小附置多摩麻院橋町
大字物本元百拾九番地
内村 鑑三

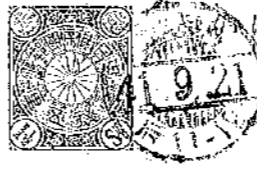


拜啓 清請求に由り古
帽ハカマの便と以て差サ上ウり
清ス後ノ年トとりたらり。勞ノ傷ノ
冠ノとして永く清使用とす
人ちしを勸ます句々

九月廿一日

陸中花巻

宗藤宗二郎様



郵便使

9.21

陸中府...
本館...
研究社

内村鑑三

海製局刷印

行銀箱信通

特啓今朝是
出小包郵便物
には不足税
要あり有之
其終清り
送り下たり
東中へ差出申
十九日廿二日

昨年の今日頃には
清地になりしことを
思ひし深き感に打
たれり殊に清一君
うたのに新上り終
まと思はれし救はれ
給ふことを祈り
草々
一九〇八年
十月十二日夜

陸中、花巻川口町

郵便は便利



宗藤宗二郎様



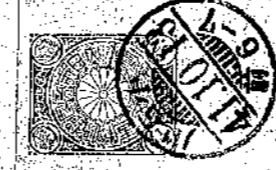
東京府豊島区花巻町
大字加木九百廿九番地
内村鑑三

〒陸中花巻川口

陸中花巻川口

陸中、花巻川口町

郵便は便利



宗藤宗二郎様

東京府豊島区花巻町
大字加木九百廿九番地
内村鑑三

〒陸中花巻川口

陸中花巻川口

其後久しく清便り無之
か得共旨様清まりたま
おとせり。当方今年は一同
無事にて清なる。信州より
来り居りし婦人帰リル所
き此次ぎはツサ子おと

思ひ居りし處、涌谷の奥

戸氏上系あり、氏は二三月

鳴濱に行て儻くつらばけ

ま其向、妻君も預かる

必要と生じ、為の…またつ

廿子一番に當り不申、甚

た気の毒に存る、然し遠か

わして招待状と弄し申す

心ざりしとせらる

聖書之研究と来年より

榎林

と改題し、天然、平和、信仰

の儻、家庭等の雜誌と

おとんとせらる、上巻、清言島

見如何に相問申さる。其
聖書に因し短かき言見
は火抵言尽し。此上の著

迷をばせしむるより他に余無

之。且又^{他の方}母に法支諸君

の聖書以外の事は然と信り

たまはると澤山有るが如何せ

人と目下^の法をもち易中に

法なる。法支の事とある

と法由致さるる事。

是様の直に法傳へる

たるは當たり

十月十日

鑑

品川藤君

10-30

陸中花巻川口町

齋藤宗二郎様



東京府墨田区
大塚
内村 三

清書有難く輯法に
か清申越の件に付きこ
猶ほ寫と基考の上決
定仕るべから、隣家のど
デルト氏は改題には反
對に清字を、尚ほ他友

人の意見も固くつたり
に清き事か。

尚ほ清病人絶えざる

由、清同情の至りにあり。

然し榮光みさかえは之に由て貴

く又これ清地方に揚る事と

あり。吾等自身はどうか

あり。直しき事とならぬか。

榮光みさかえとて揚れはそれぞ

我々の生涯の目的は達

する事と有り。生近頃は

切に此事を感じ申す。故に

新稿は至る竹間延ぶる

吾等の國家の

サチコロ

余の聖幸意と成らば

之より他に新らばきははた無

并子に直と清とな

たか、彼女は今日は清

なりと貴方とを援

彼女今日の天職と信

旅者の成りも新

とわいこも生其つを人の

一人と相成りたる

草

十一月五日

鑑三

泉小藤君

16.
四十一号
十一月五日

陸中、花巻川口町

斎藤宗二郎様

11-5

東京府豊多摩郡津田町
大字物本九百廿九番地
内村 繁三

拜啓、其後清病
人様清快方の
事と奉存なれ、昨日
家内よりウツラナキ物
清小供衆清慰め
のたの差出置かり

清落の午に下たぐり

当方もクリスマス近づく

かたの近々多忙に向

可申の何かが深淵

のちと書きたきものと

天啓を待ち居りか

清一司の上は祝稿

を新古の句々

十月廿日夜

鑑三

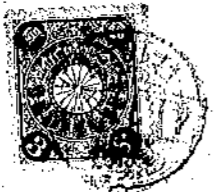
桑藤久

11-21

東京府豊多摩郡池袋町
大字柏木九百拾九番地
内村 鑑 三

陸中、花巻川口町

齋藤宗二郎様



拜啓、其後清病人
種、清快方に向はれ
る。日本中の教支のため
に此事ありしを深く感
謝致しか
叔、子子義長々待た

し。元のまゝに存る。漸く

都合附き。上る。ある

て。差支無之。但し左

の條件と兼知。ある。ある

一。今度は家事を手傳ひ。あがら

客人として来る。と。

一。先づ三ヶ月を期して来る

こと。

一。手荷物として持来らる

ための衣服。其他を用意の

こと。来る。こと。

当方に。用度奉平。公して

成功せし者。今日まで。一人も

無之。故に。彼女が。用度

下婢といふ事なる事となす方
の甚だる所は清年
先つ三ヶ月を期限として
其後の事はアトに之等の
申すべし。

旅費は前例に依り、来る
時は自辨とし、還る時は
當方に於て之を持申すべ
し。

實母の承諾を得て来る
べきは勿論に清年なり、其
他の事は當方に任あり
たし。
右用事のみあり。

十月廿六日

鑑三

宗三印兒

東京府豊多摩郡滝橋町
大字柏木九百番九番地
内村 鑑三

f
11-26

陸中花巻川口町

齋藤宗三郎様



清書方面正の落書筆法、
ツサの事にはつき左に申上り、
当方には今回ツサ子と
招きしは当方の御命を
計りとは無之の先年
下婢として侍り甚だ

先づ書面にあり、今回

は客人として、家族の一人
として暫時もてまゐると
の考へに清きよ、是れ豫
こころのけこは有る今
回之とてまゐりせんと
考へに清きよ、

然とて彼女の家族の都
合に上る事違れり
方には差支無之なり
おはは^ん彼女が今圓の
招待に應せんとす
めり或いは遠からず
他に申込ありと彼女の
在寓と詳なる事

い計の出来、其時は自ら
に為ることも甚だ残念な
二語を

何れにしても母の快活な
得て後の上糸に致したと
り、左要事の手紙を

十二月九日

鑑三

南寿父

17
1000-8
+214 1210

陸中花巻川口町
齋藤宗三郎様

12-9

東京府豊多摩郡三浦町
大字浦木九百拾九番地
内村鑑三

拜啓、以サ子事今
日正午無事者
致し、且清安心
か、其節は品々
送り、有難事
有、清病人様

正々として清快な方の由
大慶にあら。

今より言方は大さ。

賑かに相成るべし。

目下梅林集

有の橋中にて多

忙に清産。

照井君、直と清

傳へたらたらの、同書よ

り、清贈物の、遊あり

るよ、清の、直と清

謝し、其



陸中、花巻川口町
斎藤定郎様

✕
12-18

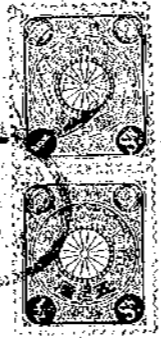
東京府夏多摩郡流経町
大守村木江百拾九番地
内村鑑三

十二月十六日

鑑三

南条君

CARTE POSTALE
Union Postale Universelle.



身

陸中花巻

川口町

斎藤宗二郎様



此所よりクリスマス
を祝す

内村鑑三



行發米越町縣

門王仁及門馬下寺生瀨漢小州

陸中花巻川口町

藤原三郎様



陸中花巻川口町
藤原三郎様
御書

花卷

品岡藤清子供様へ

東条先生へ

